

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2690800012
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	東山ケアセンターそよ風
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1 (電話)075-533-7105

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成20年12月8日

【情報提供票より】(平成20年10月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.0 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	(有) 300,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,666 円			

(4)利用者の概要(10 月 12 日現在)

利用者人数	名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	5 名	要介護2	8 名			
要介護3	1 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.5 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人弘正会 西京都病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都の東、古都、需要文化財の宝庫とも言える東山の麓、東福寺近くに建つ、当該ホームは株式会社メデカジャパンが医療、介護福祉等、色々な分野で全国各地に幅広く展開する中での、そよ風グループホームの一つです。広い敷地の一階にサービスがあり、二階を2ユニットの行き来できるグループホームとされています。開設して一年経っていないこともあり、とても綺麗で玄関、廊下等広々とゆったりと安心して過ごせるしっかりとした設備が整っているホームです。職員は一人ひとりの生活のペースに合わせながら、自由にのびのびと過ごしていただけるようにその人らしい生活を大切に支援されています。また、職員は話し合いを重ね、協力しながら、より良いケアになるように前向きに取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価です。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員の意見をもとに、センター長、管理者、ユニットリーダーでまとめて職員に目を通してもらい、再度意見を聞きながら確認して作成しています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、地域住民、京都ブロック長、京都洛東地域包括支援センター管理者、センター長、副センター長、前管理者、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1回開催しています。ホームの行事や状況報告、改善に向けての取り組みや近隣からのクレーム等の報告もしながら、質疑応答し、意見や情報を日頃のサービスに反映しています。不参加の方には随時、報告しています。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書に意見相談窓口等の記載がされています。運営推進会議や家族の訪問の際に話しを聞いたり、家族交流会を開催し意見・苦情を言いやすい雰囲気を作っています。出てきた意見は職員間で話し合い検討した結果を家族に報告しサービスの向上に反映しています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治連合会に入り、回覧板を回した際にお話ししたり、声をかけて頂いたり、町内会の話し合いに参加して、地藏盆への協力をしたり、社会福祉協議会主催の敬老会・学区の運動会などに参加して地域の方々と交流を深めています。サービスとグループホーム合同の秋祭りに家族や地域の方々が参加されたり、地域との関係が少しずつ構築されています。また利用者とは近くの喫茶店に行ったり、知人の方がボランティアにいられたりしています。</p>

東山ケアセンターそよ風

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢化社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」という法人の基本理念が掲げられているが、ホーム独自の理念や地域密着型ホームとしての理念が明確でない。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮らし、役割を職員間で共有し何が大切か話し合い、ホーム独自の理念を作り上げ、見やすい玄関やユニット入り口に掲げられる事によって利用者、家族、地域の方々にとって頂くきっかけになるのではないだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	そよ風グループとしての介護サービス理念を管理者、職員間で共有し、理念の中での個人ニーズの意思を尊重し生活の質の向上に努められる支援をしている。日々、確認する上で毎朝礼時、全体会議等で唱和している。職員の介護手帳にも謳われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治連合会に入り、回覧板を回した際にお話したり、声をかけて頂いたり、町内会の話し合いに参加して、地藏盆への協力をしたり、社会福祉協議会主催の敬老会・学区の運動会などに参加し地域の方々との交流を深めている。ディサービスとグループホーム合同の秋祭りに家族や地域の方々が参加されたり地域との関係が少しずつ構築されている。また、利用者と近くの喫茶店に行ったりしている。地域との交流をさらに深めるために地域の清掃活動に積極的に参加したいという思いがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見をもとに、センター長、管理者、ユニットリーダーがまとめて、再度職員全体の意見を聞きながら確認して作成している。今回、外部評価を受けるのは初めてであるが、利用者の安全性を確保しながら生活感を出していきたいという思いがある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、地域住民、京都ブロック長、京都洛東地域包括支援センター管理者、センター長、副センター長、前管理者、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。ホームの行事や状況報告、改善に向けての取り組みや近隣からのクレーム等の報告もしながら、質疑応答し、意見や情報を日頃のサービスに反映している。不参加の方には随時、報告している。また外部からの情報を得るために介護相談員に参加してもらう予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村窓口には介護認定更新時に行っている。保健所より指導があり、それを基にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書発送時に「そよ風だより」を同封し暮らしの一端が見えるようにしているが、さらに、ホーム独自で、毎月、利用者の日常生活の中での暮らしぶりを写真を添えて報告する予定にしている。金銭管理については、家族来所時に必ず「出納帳」を見て頂いて確認を頂いている。職員の異動については家族交流会で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも相談苦情等窓口の記載がされている。運営推進会議や家族の訪問の際に話を聞いたり、不定期ではあるが家族交流会を開催し意見、苦情等を言しやすい雰囲気を作っている。出てきた意見は職員間で話し合い検討した結果を家族に報告し、サービスの向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日々の中で管理者は職員から話を聞いたり、協力しながら、精神的フォローを頻繁にしている。担当するユニットを変更するなど、工夫をし出来る限りの配慮はしている。新しい職員には利用者が馴染まれるまでの間、日勤のみで対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修を受ける機会を設け、参加できる体制は作っている。研修受講後は報告書を提出し、報告書を基に、会議の場で伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、ケアマネージャー協議会に入り、研修会や交流を図っている。「そよ風ブロック交流研修会」が持たれており、そよ風グループの中で交換研修をするなどして、気づきをサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に見学に来られる場合はお茶を飲んだり、話をしながらホームの雰囲気に馴染めるような配慮はしている。ホーム側から家庭を訪問し、アセスメントし、職員間で暮らしぶりや習慣を理解して、継続した生活ができるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという思いを職員が共有しており、日ごろから、利用者のできることを引き出し、料理の味付けや、調理方法などについて教えてもらったりしている。また職員と一緒に掃除や洗濯物干しなどをする中で、日々利用者のペースに合わせてながら職員と共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、以前の暮らしの情報を得て、希望や意向の把握に努めている。また、日常の会話や、行動からも思いを把握するようにしている。困難な方には、表情や仕草から思いをくみ取り、介護日誌や申し送りノートに記録し、職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントし、利用者や家族の意見、要望を聞き、ケアプランに反映している。カンファレンスで話し合った内容を基にして一人ひとりにあった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃から職員全員が利用者の現状を把握し、3ヶ月に1度の担当者会議で評価を行っており、家族の意向、主治医の意見等をもとに介護計画の見直しをしている。状況に応じて計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない場合の通院介助をしたり、希望があれば個別での外出、買い物の支援をしている。中には住んでいたご自宅に帰りたい願望の方もおられ、家族了解のもと、家を見に行くなど、要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が以前からのかかりつけ医を希望されている場合には家族対応で受診しており、月に2回は協力医療機関からの往診がある。必要に応じて近所の歯科、眼科、耳鼻咽喉科に職員介助で受診している。緊急時はいつでも連絡可能な体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針については職員間で話し合いを重ね、本人・家族の希望を考慮して、医療関係者、職員共交えて検討し、運営推進会議などで示し、方針の共有化を進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	初回のオリエンテーションの中で接遇研修を行い、言葉かけや接し方については常に注意を払っている。プライバシーを損ねるような言葉や態度を見かけたらその都度、職員同士で注意をするよう心がけている。個人情報の記録物については事務所の鍵のかかる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めずに一人ひとりの希望に合った自由な暮らしを支援している。起床時間や就寝時間、食事時間、入浴時間も深夜、早朝以外であれば自由であり、利用者個々のペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会社から基本の献立が届くが、時には利用者の好みを聞き、旬の物を取り入れながら献立を決めている。食事の支度、後片付けまで利用者と一緒にっており、味付けや味見をして貰い、職員と利用者で会話をしながら楽しく、食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限りの利用者の希望やタイミングに添って、いつでも入浴して頂くよう心がけている。体調によって入浴できないときは清拭にて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、庭での野菜作りや編み物・手芸、家事等、一人ひとりの得意なこと、好きなことをして頂いて、その方にあった楽しみを支援している。気晴らしに買い物に出かけたり、玄関前のベンチでゆったりと外気浴を兼ねて歌をうたったりしている。家族参加の日帰り旅行も実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は頻繁に外気浴を兼ねて散歩に行っている。買い物やドライブに出かけたり外食に行ったりしている。近くの喫茶店で、ゆっくりお茶をするなど可能な限り戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は利用者自身が鍵をかけられている方もいる。ユニット玄関はオープンにしているが、1階玄関は門が無い為、車の往来が激しく不審者の関係もあって、オートロックの玄関としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署を交えて夜間想定での避難訓練と消防訓練を実施している。また地域の防災担当者を通じて地域住民参加への働きかけが出来ればと考えている。	○	地域の防災担当者を通じて地域住民に伝達し、参加を促す働きかけが実現することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立表を基に利用者の希望を採り入れたり、食材を見て量やバランスに考慮している。食事量や水分量をチェック表に記録し栄養士に確認してもらってアドバイスを受けている。利用者一人ひとりの体調、好み等を職員間で共有し、食べやすい工夫をしたり、声かけをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関も広く一人ひとりの下駄箱があり、ゆったりと安心して座れるベンチがある。廊下、浴室、トイレも広く明るく綺麗でゆったりとした空間がある。玄関には花が生けてあり、リビングの壁には日頃利用者が作られた、作品が飾られテーブルにも花が生けられて窓越しから見える緑の木々が一段と季節感を味わえる落ち着いた場所となっている。ユニット間を行き来できる格子玄関は懐かしい感じとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具、椅子、タンス、ソファ、テレビ、仏壇、写真等を持ち込んで頂いて、その人らしい居心地のいい居室作りに配慮されている。		